

## 国土交通省技術基本計画へのパブリックコメント意見

- ・65名の方より180件を越えるご意見を頂きました。
- ・頂いたご意見については趣旨を変えない範囲で表現を簡略化して掲載しました。
- ・頂いたご意見のうち、同趣旨のものは事務局で適宜まとめて掲載しました。
- ・技術基本計画に対する感想(良い、悪い)は掲載しておりませんが、今後の計画づくりや施策の実施にあたって参考とさせていただきます。
- ・技術基本計画に直接関係のないご意見は掲載しておりません。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
タイトル		タイトルについてご意見を頂いた。 (分かりやすく良い、国土再生21、「21世紀の暮らし」、「2025年のよりよい暮らしと技術をめざして」、「暮らしの未来にむけて」、「技術が作る明日の暮らし」、「21世紀の暮らし パーチャルからリアルへ」、「21世紀の暮らしを支える新技術」、「2025年への近未来技術戦略」、「21世紀の暮らしと社会」)	国土交通省の行政は「暮らし」に深く関わっており、本計画も「暮らし」と「技術」との関わりを積極的に意識してまとめたものであること、また21世紀となった現在において、「明日」という言葉の方が、より身近な「暮らし」につながる意味を持つ言葉であること、そして「技術」と「暮らし」とを結びつける言葉として「支える」、「作る」、「拓く」が考えられましたが、本計画が目指すところの技術と暮らしの関係を最も的確に表しているという観点から「支える」を選び、「技術が支える明日の暮らし」としました。
全体構成		本計画のスケジュールと予算、及び結果に対する定量的な効果について記述すべきである。	「はじめに」に記載しているとおり、本計画は平成15年度からの5か年を計画期間とした技術研究開発の「方向性」を示すものですので、スケジュールや予算は記載しておりません。また、技術研究開発の効果そのものを定量的に示すことは困難なことから、本計画では、技術研究開発の成果が社会に与える影響を物語風に「プロローグ」で示すこととしました。
全体構成		推進戦略分野においては、官・民・大学の役割分担が明確に示されていないような印象を受けました。技術開発は目的や規模によって、国が主体となって進めることと、民間企業が主体となって進めることに大別できるはずで、この点を明言する必要があると感じます。	具体的には、国と民間、大学のそれぞれの役割分担を「はじめに」に明記しました。具体的には、民間企業は生産性向上や品質向上につながり比較的短期に成果が得られるような、リスクが小さく企業としての採算性が期待でき、実用化に結びつく技術研究開発を中心に、大学は広範囲な基礎的研究、及びその実用化に向けた研究を中心に、国土交通省は研究の方向付けと、リスクが大きく膨大な資金を必要とする技術開発、国家的プロジェクト、国際的にリーダーシップを取るべきプロジェクトなど、国家的見地から進めるべき技術研究開発を中心に役割分担することで、産学官の連携をより効果的なものとしていきます。」と記載しました。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
全体構成		ハート面のみならず、ソフト面での研究をもう少し前面に出せないか。	ご指摘を受けて、ソフト面での記述を増やしました。具体的には、開発戦略目標に「災害情報提供技術」、「3D電子地図情報適用システム技術」、目標に「物流効率化技術」、目標に「施工の急速化・コンパクト化技術」、「公共資産を運営管理していく総合マネジメントシステム技術」、目標に「都市再生」を加えました。
全体構成		国土交通省では「まちづくりと自転車」ということで優れた交通手段である自転車の利用を勧めています。『21世紀の暮らしと技術』の中では自転車問題について触れられていません。特に都市の駐輪問題は21世紀には解決されるべきものと思っています。ぜひどのように対応するのか触れてほしい。	自転車については都市への環境負荷の小さい移動手段として注目しており、自転車道ネットワーク、駐輪場の整備に努めているところですが、この分野で技術開発要素はあまりないと考えており、本計画には記載しておりません。施策面で工夫を図っていきます。
全体構成		女性に配慮した技術を提案してもらいたい。	住環境に関連する技術、リサイクルに関連する技術等も本計画に極力盛り込んだつもりですが、ご指摘を踏まえ、具体的な施策を進めるにあたって女性に配慮した技術について、さらに取り組んでいく予定です。
全体構成		共働きで幼児がいる家庭のための技術が必要だと思います。	幼児がいる家庭のための技術については、プロローグの「8.大空愛美」のコメントの最後に「最近の住宅は家族のコミュニケーションが自然にとれるような造りになっていて、子供たちをしっかりと見守ることができます。」と記載している技術が対応していると考えておりますが、これに加えて開発戦略の目標にユニバーサルデザイン技術として追記しました。
全体構成		現在のゆとりのない社会は、技術だけで補完されない。技術でお手伝いできるという1歩下がった控え目な表現を求める。	一部の表現を見直しました。具体的には、プロローグの1.山川花子の記述を「わたしたちのような高齢者も体の不自由な人も元気な若者と同じように外出できるようになって、外国からも視察に大勢の人がやってきます。」から「わたしたちのような高齢者も体の不自由な人も、以前と比べて外出するのがずいぶん楽になりました。」に、「寝たきり老人も減り、明るい世の中になりました。」を「歳をとっても快適に過ごせる世の中になりました。」に修正しました。7.大空鉄也の記述を「地震で住宅などが倒れて下敷きになって亡くなる人は、ほとんどいなくなりました。」から「地震で住宅などが倒れて下敷きになって亡くなる人も少なくなりました。」に修正しました。
全体構成		効率よく技術開発項目を実行してゆくに必要な技術者から作業員までの者達にとって、社会への貢献という意識をいかに持ち続けさせられるのか。この基本計画で目指す社会を支えてゆく者たちが、いかに責任と魅力のある仕事を担っているかというモチベーションアップについて、産学官の研究を追加するべきである。	ご指摘のとおり重要な問題であるとは認識しておりますが、建設業の魅力向上については直接的に研究開発で解決されるものではなく、本計画の実現によって建設分野が魅力的な先進産業としてより多くの方々へ認知していただくことが必要であると考えております。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
全体構成		目指すべき社会及び国土の姿を明示し、それに対して国民の意見をもらうべきではないか。	「21世紀の国土のグランドデザイン」で、目指すべき社会及び国土の姿を明示しているため、本計画では示しておりません。
全体構成		メタンハイドレートの開発や核融合など、新しいエネルギー安定供給の体系を構築し、そのための技術を開発する必要があると考えます。	国土交通省としてもメタンハイドレートの安全輸送の研究、新エネルギーの交通機関での利用などの研究を進めており、関連省庁と連携して一層エネルギー分野についても取り組んでいきたいと考えております。
全体構成		一般の人に興味を持ってもらうための工夫が必要である。	専門的な用語については極力減らし、記載せざるを得なかったものには用語集で対応しました。また、広報用として本計画のパンフレットを作成します。
全体構成		英語、カタカナ語はできるだけ使わず、使った場合は必ず言い換えるべきである。	できる限り言い換えをしました。英語・カタカナ語が適切な場合には巻末の用語集で対応することを条件として記載することしました。
全体構成		最近の政策の問題は、質の問題ではなく国民の関心度の低さではないかと思えます。理想、目標だけではなく、そのプロセスも具体的に示して、国民の関心を高める必要があると思えます。	皆様に関心を持っていただくためにパブリックコメントやシンポジウムを実施してきたところですが、今後、本計画を実施する上でもご指摘事項に留意して参ります。
全体構成		地方で豊かに暮らすことも重要であると思えますが、無視されています。	地方で豊かに暮らすことについては、技術開発よりも施策面での課題と考え、本計画には記載しておりませんが、今後、施策を実施する上で有意義なご意見であり、参考とさせていただきます。
全体構成		地道な積み重ね+日本人の美德=資源である「働き者」を、活性化させる仕組みを、ぜひ考えてほしい。	ご指摘事項については、技術開発よりも施策面での課題と考え、本計画には記載しておりませんが、今後、施策を実施する上で有意義なご意見であり、参考とさせていただきます。
全体構成		建設投資の効果的運用」のためには、個々の技術のコスト縮減のみならず、入札、契約制度及び建設産業のあり方の全体の改善が必要と思えます。	国土交通省が精力的に取り組んでいる重要な問題であると認識しておりますが、技術開発よりも施策面での課題と考え、本計画には記載しておりません。今後、施策を実施する上で有意義なご意見であり、参考とさせていただきます。
プロローグ	全体	プロローグの位置づけが不明確である。	位置づけを明確に記載しました。
プロローグ	全体	プロローグにある20年度の暮らしは、高度情報化社会や少子高齢化社会における真に豊かで楽しい雰囲気が感じられません。このような暮らしをどれだけの方が望んでいるのでしょうか。生活のにおいがまったく感じられず、対象となる方々に直接話していただいたものとは到底思えません。夢物語に近い。	プロローグは技術開発による将来社会の可能性を示すため、技術によって変化した一面を捉えて記述しているため、生活のにおいが感じにくいことは否めませんが、本計画の内容を直感的に理解していただくことの国土交通省としての新しい試みであり、ご理解をお願いいたします。
プロローグ	登場人物	登場人物の紹介をもっと簡略化すべきである。	簡略化しました。
プロローグ	登場人物	プロローグが物語り風になっているが、全ての年代(30,50,60代がない)の意見を網羅した方がよい。	高齢者や子供の視点も重要という観点から幅広い年代の登場人物を設定しましたが、家族としてつながりのある4世代の登場人物としたことから、全ての年代を網羅することはできませんでした。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
プロローグ	1.山川花子	わたしたちのような高齢者も体の不自由な人も元気な若者と同じように外出できるようになっていて、外国からも視察に大勢の人がやってきます。』高齢者は元気な若者とは違った生き方、価値観があって良い。同じように外出できるようになることに、どれだけの意味があるのか。また、各種技術を駆使して高齢者のサポートをするのは重要かとは思いますが、相当に費用がかかりそう た。 寝たきり老人を減らすことも難しいと考える。寝たきり老人が減る = 明るい世の中』とは限らないと考える。歳をとっても快適に過ごせる世の中』等に言い換えた方がより具体的で分かりやすいと思う	ご指摘を踏まえ、記載内容を修正しました。具体的には、わたしたちのような高齢者も体の不自由な人も元気な若者と同じように外出できるようになっていて、外国からも視察に大勢の人がやってきます。』をわたしたちのような高齢者も体の不自由な人も、以前と比べて外出するのがずいぶん楽になりました。』に、寝たきり老人も減り、明るい世の中になりました。』を歳をとっても快適に過ごせる世の中になりました。』に修正しました。
プロローグ	1.山川花子	バリアフリーに加えUD(ユニバーサルデザイン)に関する記述を追加するべきである。	バリアフリーは技術開発よりも施策面でいかに工夫するかという課題であり、技術開発という側面からはユニバーサルデザインがより適切な表現であると考え、ユニバーサルデザインを追記し、バリアフリーを削除しました。
プロローグ	2.山川花子	弱視を含めた視覚障害者に関する記述が少ない。	人工衛星から位置情報や周辺の交通情報などが送られてくる技術が、視力の弱い人にも対応する技術として、プロローグに追記しました。
プロローグ	2.国土建治	地震の被害が激減するためには、補修だけでなく補強も必要かと思う	ご指摘を踏まえて、「劣化部分の補修工事」を「劣化部分の補修や耐震補強の工事」に修正しました。
プロローグ	2.国土建治	自分が現役のころ、今みたいな感じだともっと楽しかっただろうに』よりも、自分がこのような社会にした当事者の1人であるという誇りを記述した方がよい。 いまは地域の世話役をしているけれども、住民の多様な意見をまとめる過程で地域の特色をいかした夢のあるまちづくりのアイデアが生まれ、今後これをどう展開していくか考えると胸がわくわくしてくる。自分が現役のころ、住民説明会で夜遅くまでがんばったこと等、いまはなつかしく思い出される。』というのはいかがか。	ご指摘のご意見を活かさせていただき、ご指摘のとおり修正しました。
プロローグ	3.国土静代	軽薄な印象を受けるので、69歳の主婦にあった物語とするべき。カニや皿鉢料理など食べ物を主体にしていますが、各地方の文化・歴史に触れにいくこと等を主体にした方がよいと思います。地元球団の優勝応援なども69歳の主婦としてイメージしにくいです。RFIDカードを説明したいのであれば、宿泊予約とかに変えたほうがよい。この年齢断面であれば、まず一人で旅行せず、旦那さんか親しい友達とグループでいくと思うので、そういう設定での再考が望まれます。	今後、高齢者の数が全体として増加する中で、様々な生活スタイルの高齢者も増えるだろうという想定で記述しましたが、ご指摘を踏まえて、一部表現を修正しました。
プロローグ	5.国土保子	全体的にロボットの記述が多すぎるように感じる。例えば、家事ロボットのところは、開発戦略目標とはミスマッチであると思われるとともに、家事ロボットが横行する暮らしが本当に将来の豊かな暮らしのイメージとして妥当なのかは疑問である。	全体的にロボットの記述が多いという御指摘を踏まえて、家事ロボットを削除しました。
プロローグ	7.大空鉄也	防災担当なのだから、もっと当事者意識を前面に出すべきだ。	防災担当者としての意識をもう少し前面に出すとともに、災害時の危険箇所点検に関する話をさらに追記しました。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
プロローグ	7.大空鉄也	古い建物を補強する意見は強調されるべきであり、意見が表明されていることは理解できる。しかし、現実に老朽化した住宅の耐震補強が遅れていることに目を向けると、地震で住宅の下敷きになって亡くなる人がいなくなることを楽観することはできない。	地震で住宅などが倒れて下敷きになって亡くなる人は、ほとんどいなくなりました。」を「地震で住宅などが倒れて下敷きになって亡くなる人も少なくなりました。」に修正しました。
プロローグ	9.大空夢香	記述が女の子らしくない。	原案でも十分だと判断し、原案のままとしました。
プロローグ	10.大空夢香	大深度地下技術に関する記述を追加するべきである。	プロローグに、大深度地下技術に関する記述として、「地下深くに道路や鉄道を通すことができるようになったおかげで、地上の道路の歩道も広くなり、散歩しやすくなりました。」を追加しました。
プロローグ	12.道中晴海	技術革新により建設工事範囲がコンパクトになったことにより交通規制が少なく、快適な交通環境となっている。」ということを追加するべきである。	ご指摘のように、交通環境の改善も技術研究開発の期待される効果として想定されるので、プロローグに、「技術革新で建設工事の範囲がコンパクトになり、工期も短くなったため、交通規制も少なくてすみ、快適な交通環境となっています。」を追加しました。
開発戦略	全般	開発戦略では国家として行うべきこれからの重要課題の目標、とを目標より前にすべき。同上の理由で重点プロジェクトの順番も入れ替えるべき。	国土交通省が目指すべき課題について、重要度の高いもの、生活に関連の深いものから順に選定した結果であり、原案のままとしました。また、重点プロジェクトについては、開発戦略の目標の順番に沿った順番としました。
開発戦略	全般	吹雪や豪雪等による災害についても記載するべきである。	開発戦略の目標に「雪害」を追加しました。
開発戦略	全般	開発戦略に掲げられた課題は、既に大学や民間企業(産学)で技術開発が行われているものもあり、これらは国が実施するには規模が小さく、新規性に欠けると思われます。国は、産学で実施する個々の技術開発課題を集約又は融合させ、国の大型プロジェクト実現に結びつける総合的視野に立った技術開発課題を提示されると良いと考えます。	具体的な方向性に記載されている項目はいずれも国で実施されている課題あるいは今後実施される予定の課題です。総合的視野に立った技術開発の実施については、今後、施策を実施していく上で、有益なご意見として参考にさせていただきます。また、官民の役割分担については「はじめに」に追加しています。
開発戦略	目標	枠内にテロ、防犯という言葉が見られません。よく読むと下に書かれているのですが、国民の関心は非常に高いと思います。	枠内にも防犯やテロという言葉を加え、陸・海・空の交通事故、有害科学物質による水の汚染、犯罪やテロなどから国民の生命、...」と修正しました。
開発戦略	目標	予測の程度を向上することは極めて重要であるが、安全な避難場所と非難道路の構築を確立すべきである。加えて不案内な場所でも避難場所が明確に分る誘導標識の設置を希望する。	技術研究開発の具体的な方向性の最初の事項「地震や津波、火山噴火、雪害時等の災害による被害を大幅に軽減するための技術研究開発」に含まれると考えています。具体的な避難場所整備は本計画の対象外ですが、ご指摘の点を踏まえた技術研究開発を進めていきたいと考えております。
開発戦略	目標	地球温暖化に伴う高潮対策技術、例えば、合理的な防潮堤構造のあり方などとはテーマとなりうると思われま。	高潮対策技術は、災害対応技術や災害予測技術に含まれていると考えております。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
開発戦略	目標	地震災害に対する技術開発には、病院、計算機センター、住宅など、震災直後にも建築物の機能を維持する性能設計を進めることも取り上げるべきである。また、インフラ施設の免震、耐火技術もまだまだ今後の技術開発課題といえる。	耐火耐震性能の向上技術の開発」を追記しました。
開発戦略	目標	技術研究開発の具体的な方向性の(リアルタイム災害対応技術の開発、災害予測技術の向上、海難救助技術の開発 等)に「リアルタイム災害情報提供技術の開発」を加えるべきである。	(リアルタイム災害対応技術の開発、災害予測技術の向上、災害情報提供技術の開発、海難救助技術の開発、等)に修正しました。
開発戦略	目標	ホームページの資料を拝見いたしました。先日日経新聞に掲載されていた精密3D地図を国土交通省が作るという話が載っていないようです。なかなかおもしろい話だと思っております。	3D電子地図情報適用システム技術の開発について開発戦略の目標、重点プロジェクトに追記しました。
開発戦略	目標	国土の安全についても、まだまだ改善すべき点はないのでしょうか？地震が多発し、大雨により地すべりが生じ、人の命が奪われていくのはとても先進国とは言えない状況ではないでしょうか？耐震連結や巻きたて補強などが実施されていますが、画一的な対策ではなく、本当に危険性のある構造物は破棄し改築したり、ネットワークにより迂回路を設けるなど日々安全性向上に努めていくべきと考えます。	国土の安全については、開発戦略の目標に記載しているところです。技術研究開発にあたっては、御指摘の点も踏まえて進めていきたいと考えております。
開発戦略	目標	技術開発戦略の具体的な方向性に、ヒューマンインターフェースを考えた交通施設、社会資本の技術開発が必要であると考えます。	重点プロジェクトに、ヒューマンインターフェースとそれを利用した交通機関の安全性向上に関する技術開発が含まれています。
開発戦略	目標	「良質な環境を取り戻す」ことは都市に人口が集中しすぎ、その上に便利なものを個人々々がかってに使い自然環境が人工的な負荷に耐え切れなくなってしまったことにある。ヒートアイランド現象、交通渋滞、通勤ラッシュ、交通公害、交通事故、交通弱者対策等々、都市は個人がバラバラに無秩序に所有し、使用していることにより起きており、マイカー、エアコンがその例である。次に問題が起きるのはケイタイ電話による電磁波や余裕がなくなっている人の問題、教育問題まで発展してしまうと思う。	ご指摘事項については、技術開発よりも施策面での課題と考えます。今後、施策を実施する上で有意義なご意見であり、参考とさせていただきます。
開発戦略	目標	都市の消費を支える生産領域についても示す必要がある。	開発戦略の目標が対応していると考えます。
開発戦略	目標	方向性のひとつとして、「美しく自然風景や沿道景観などを観光資源として積極的に活用していきます。」を追記するべきである。	自然風景や沿道景観を観光資源として活用することと技術研究開発との関連性が薄いため、原案のままとしました。なお、街なみや自然風景に関しては、開発戦略の目標に記載しております。
開発戦略	目標	の自然共生型国土基盤整備技術のひとつに環境配慮型の施工技術開発を追加すべきと思われます。(例えば、地下工事における地下水流動保全工法の開発など)	開発戦略の目標の「現状と課題」と、技術研究開発の具体的な方向性「生態系を守り、自然共生、自然再生・創造するための技術研究開発を行います。」が該当すると考えており、原案のままとしました。
開発戦略	目標	目標に掲げられている「美しく」の内容が明快でない。「美しい日本」という言葉が枠に示されているから、例えば「都市景観」は対象にならないのか。	「都市景観」も対象となります。街なみや自然風景などを美しく再生・保全・創造するための技術研究開発も例示しています。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
開発戦略	目標	土木構造物の景観性向上技術の開発なども必要では。	街なみや自然風景などを美しく再生・保全・創造するための技術研究開発が該当すると考えています。
開発戦略	目標	今まで築き上げた社会資本ストックの延命、劣化しにくい構造物の設計方法の開発、維持更新のための技術開発を推進する必要がある。これらの社会資本ストックを単なる維持補修、補強による長寿命化の方向性でのみ考えるのではなく、場合によっては、交通網の将来構想を踏まえながら、現機能から別機能への転換を考慮したリユース等の可能性についても話題として充分取り上げる価値がある。	維持管理については開発戦略 に記載しております。リユースについてもそれに含まれると考えております。
開発戦略	目標	社会資本の長寿命化やローコストのためには、新素材など材料分野の基礎的研究開発は永遠のテーマとして追加すべきと思われる。(この辺が民間企業にとって取り組みにくい分野であるため)	開発戦略の目標 に「新素材の開発」を追記しました。
開発戦略	目標	コンクリートを代表する構造物の劣化を検知あるいは補修する考えが示されている。むしろ、劣化を起こさせない設計および施工方法、さらに構造物の維持管理が重要であるとする。	開発戦略の目標 の「社会資本・交通機関の維持管理のコスト削減などのストック有効活用のための技術研究開発」に含まれていると考えております。
開発戦略	目標	各交通機関のネットワークや通勤地獄の解消を是非追加してほしい。	開発戦略の目標 の「交通サービスをもっと便利で快適にするための技術研究開発」に含まれていると考えております。
開発戦略	目標	目標「快適で生活コストの安い暮らしを実現します」と掲げて、コスト削減による効果がめぐりめぐって目標を実現することになるとされています。確かにコスト削減の努力も最重要課題ですが、一般国民にとってピンとこないように思われます。生活コストというと有料道路の通行料のように直接的に感じられるものが安くなる、あるいはタダになるようなことを取り上げていただいた方が分かりやすいと思います。	有料道路料金については法令の規定に基づき許認可されており、技術開発とは直接的に結びつかないことから記載しておりません。
開発戦略	目標	目標を「快適で豊かな暮らしを実現します」に変更する。	国土交通省は現在、「コスト構造改革」に取り組んでおり、技術開発においてもその視点を強調するために、敢えて「コスト」という文言を用いておりますので、原案のままとしました。
開発戦略	目標	社会資本・交通機関整備のコスト削減のための技術開発に、施工の自動化、省力化技術のほかに、必要なものを早くつくる急速化技術及び社会生活への迷惑を最小限に抑える施工のコンパクト化技術の開発が必要である。	施工の自動化・省力化・急速化・コンパクト化技術に修正しました。
開発戦略	目標	交通渋滞は20世紀を代表する負の遺産です。この主因となるボトルネック解消は、快適な暮らし及び経済活動の活性化に不可欠の要素であり、総合的な技術体系の整備、新技術の開発が求められている分野であり、重点プロジェクトに取り上げるべきテーマと考えられる。	交差点立体化やボトルネック踏切解消などボトルネック解消技術については、効率的にボトルネックの解消を進めるという観点から、技術開発戦略の目標 における技術研究開発の具体的な方向性の「社会資本整備・交通機関整備のコスト削減のための技術研究開発」に含まれていると考えており、原案のままとしました。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
開発戦略	目標	新技術を追うだけでなく、現在保有するインフラの有効利用を考えた技術にも触れるべき。	開発戦略の目標 の「社会資本・交通機関の維持管理のコスト縮減などのストック有効活用のための技術研究開発」に含まれていると考えております。
開発戦略	目標	大深度など地上とのアクセスに距離が必要なものより、現在の公共用地の高度利用が必要ではないでしょうか？物流の面でも、高速道路と鉄道のアクセスを強化すれば、事故の多いトラックによる長距離運行の形態も変えられるのではないのでしょうか？	開発戦略の目標 の「交通サービスをもっと便利で快適にするための技術研究開発」に含まれると考えております。
開発戦略	目標	道路その他の公共資産を運営管理していく総合マネジメントシステムは、大変重要なテーマであると考えます。	開発戦略の目標 の技術研究開発の具体的な方向性に「公共資産を運営管理していく総合マネジメントシステム技術の開発」を追記しました。
開発戦略	目標	国際競争力を高めるには、諸外国のより多くの人々が我が国に訪れてくれることが必要であり、そのためには魅力ある都市及び国土整備がより一層求められるため、目標の下段にある解説に「都市再生、都市の魅力、観光交流」等のキーワードを追記する。また、大都市が抱える問題を解決することが必要である。	技術研究開発の具体的な方向性の最初の事項に、「都市再生」を加えました。
開発戦略	目標	国際的な問題を扱うとき、それぞれの国が持つ国民性・経済力・技術力・社会的背景を無視して、ISOなどの技術基準を定めるのは困難である。	国土交通省としてもご指摘事項については重要であると認識しており、ご指摘事項を踏まえた上で本計画を実施して参ります。
開発戦略	目標	世界水フォーラムで議論された「水危機（仮想水）」のことを明記するべきである。	開発戦略 の国際貢献技術として「水管理技術の開発・支援」と記載しております。また、水の安定供給へ貢献する技術開発として、重点プロジェクト にも記載しています。
開発戦略	目標	目標 は、不要と思います。	ソフト面の技術開発も重要であると考えており、原案のままとしました。
開発戦略	目標	バリアフリーからユニバーサルデザインへの変革が必要であり、そのための技術開発という位置付けでないと、誰もが社会の一員イメージが希薄になると考えられます。	技術研究開発の具体的な方向性において、 …社会資本や交通機関などをユニバーサルデザイン化するための技術研究開発… (…交通機関などのユニバーサルデザイン化技術の開発 等) と表現を修正しました。
開発戦略	目標	通勤・通学者、地元住民、さらにその中でも乳幼児のいる家族、或いは障害者・高齢者など、様々な人々の意見を集め、合理的かつ効率的に合意を形成する技術(仕組み)と専門家の確保が必要と考えます。そのためには、専門家育成のため、教育、評価、公的資格、報酬等の制度が必要と考えます。	(3)人材・基盤戦略に記載しておりますが、施策の実施にあたってはご指摘事項を参考にさせていただきます。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
開発戦略	目標	「国民の意見の反映」と「合意形成技術の開発」とは、異なるものと思う。また、「合意形成の技術の開発」というと、国民に、「私たちをまるめこむ技術の開発」というように受けとられかねない。	合意形成のための意見集約・コミュニケーション技術」に修正しました。
重点プロジェクト	全体	開発戦略で5つの目標を挙げ、10の重点プロジェクトをあげているが、目標の順番に重点プロジェクトが並んでいないため、非常に読みづらい。	目標に対応する順に記載し直しました。
重点プロジェクト	全体	開発戦略の目標 ~ と各重点プロジェクトの関連性が不明確であり、プロジェクト選定の理由を記載するべきである。	開発戦略の方向性を具体化するため、開発戦略の各目標に記載している課題のうち、我が国が目指すべき国の姿を鑑みて、社会的波及効果が大きく、今後5年間で推進していく必要があると考えられる技術開発テーマ」を、重点プロジェクトとして選定しました。」を記載しました。さらに、各目標と重点プロジェクトの対応が明確となるように「技術研究開発の具体的な方向性」に記載しました。
重点プロジェクト	全体	重点プロジェクトの10項目の項目と内容は妥当ではない。特に から はナンセンスで、コンペ形式にでもしてゼネコンに考えさせれば良いもので、役所が税金やアタマや時間を使う分野ではない。	開発戦略の方向性を具体化するため、開発戦略の各目標に記載している課題のうち、我が国が目指すべき国の姿を鑑みて、社会的波及効果が大きく、今後5年間で推進していく必要があると考えられる技術開発テーマ」を、重点プロジェクトとして選定しました。民間が主として技術研究開発を担う分野であっても、国が関与する研究開発課題については、開発の方向性を国が明確に打ち出し、認識を共有することが重要と考え、本計画に記載しました。
重点プロジェクト	全体	技術研究開発の具体的な方向性として、国土交通省の重点施策にあるような「都市再生」が求められており、「都市再生技術の開発」など、重点プロジェクトに取り上げる必要があるのではないのでしょうか。	都市再生は対象都市によって実施施策を熟慮する必要があり、技術研究開発よりも施策面での工夫が重要であることから、都市再生を重点プロジェクトとしては採用しませんでした。なお、「都市再生による国際競争力の確保のための技術開発」を開発戦略 に追記しました。
重点プロジェクト	全体	国土交通省の重点施策にある「海上物流改革の実現」、物流の効率化、コスト低減、国際競争力の向上と経済活性化 - モーダルシフトの推進、物流課題へのハード・ソフト一体となつての対応」など、重点プロジェクトに取り上げる必要があるのではないのでしょうか。	いずれも重要な課題と認識しており、重点プロジェクト に関連の記述を追記しました。なお、開発戦略の目標 、 にも記載しております。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
重点プロジェクト	全体	技術研究開発の具体的な方向性、国土交通省の重点施策にある「少子・高齢社会に対応したバリアフリー社会の形成 - 公共交通機関等のバリアフリー化の促進 - 」国民にわかりやすい情報公開 - 事業評価、アカウントビリティの簡潔性 - 」が求められており、目標 に対応する重点プロジェクトに取り上げる必要があるのではないのでしょうか。目標 に対する重点プロジェクトが1つもなく、目標のそれぞれに最低1つの重点プロジェクトがあるべきだと思う。	重点プロジェクトは、我が国が目指すべき国の姿を鑑みて、社会的波及効果が大きく、今後5年間で推進していく必要があると考えられる技術開発テーマ」であることを基準に選定しており、目標 該当する研究課題では重点プロジェクトとして採用するものは現在のところありませんでした。今後、計画を進めるにあたって目標 該当する研究も重点プロジェクトに劣らぬ成果を出せるよう、努力してまいります。
重点プロジェクト	全体	「環境の計測技術の高度化」「環境モニタリング技術の開発」などのテーマがほしい。プロジェクトの追加検討が必要では。	いずれも重要な課題と思われませんが、重点プロジェクトは、我が国が目指すべき国の姿を鑑みて、社会的波及効果が大きく、今後5年間で推進していく必要があると考えられる技術開発テーマ」であることを基準に選定しており、重点プロジェクトとしては採用しませんでした。なお、重点プロジェクト、の一部として記載されております。
重点プロジェクト	全体	目標 の技術研究開発の具体的な方向性の中に「土壌汚染・水質汚濁対策技術」があるが、この技術は早急に必要と思われるので、重点プロジェクトにあげるべきと考える。	水質汚濁対策及び水を介して移動する物質循環対策について、重点プロジェクト に記載しており、ご指摘の課題についてはこれに含まれると考えております。
重点プロジェクト	全体	ヒートアイランド対策に関する総合的な技術開発も重点プロジェクトにふさわしいテーマと思われます。	開発戦略の目標 の中でヒートアイランド対策技術について記載しておりましたが、それに加え、重点プロジェクト に追記しました。
重点プロジェクト	全体	新しい技術の活用をもっと積極的に取り上げてください。激しい技術革新の中で21世紀を見通すのは困難なことは承知していますが光触媒、アクティブノイズコントロール、マグレブ(磁気浮上)道路等環境改善につながる技術には目を向けていただきたい。	いずれも重要な課題と思われませんが、重点プロジェクトは、我が国が目指すべき国の姿を鑑みて、社会的波及効果が大きく、今後5年間で推進していく必要があると考えられる技術開発テーマ」であることを基準に選定しており、重点プロジェクトとしては採用しませんでした。なお、ご指摘事項については、計画実施にあたり参考とさせていただきます。
重点プロジェクト		宮城県沖地震(今後15年以内に90%の確立でM=8クラスの地震発生が予想されている)等についても記述してほしい。北海道南西沖地震の大津波事例コメントを追加してほしい。	東海、東南海・南海地震を中心とした地震対策の強化に関する技術研究開発への取組みについてテーマを絞って記載しております。焦点がぼけないように、その他の具体的な場所を含む詳細な内容については記載しないこととしました。また、本プロジェクトで培われた技術が他地域の地震対策の改善にも有効であると考えており、計画実施にあたっては他地域のことを念頭に置きつつ進めてまいります。
重点プロジェクト		重点プロジェクトの には「東海、東南海、南海地震を中心とした地震災害対策の強化-予測精度及び減災対策の向上-」が詳しく述べられていますが、他の災害への記述もあった方が良く考えます。	概要の後半部において、他の災害についても触れているため、原案のままとしました。
重点プロジェクト		鉄道の運用に関しては19世紀レベルと変わってません。乗客が集まる「ホーム」の構造はもっともっと最適化が必要です。事故防止のためのヒューマンエラーに重点がおかれているように見えますがハードはまだ改善すべきです。	ご指摘のとおりハードの改善は必要ですが、それに加えて、従来行われていなかったソフトの改善を行うことで、大幅な事故削減を図るというものです。施策の実施にあたってはソフト技術の研究開発と同様に進めていきます。

意見該当部分等	頂いたご意見	意見に対する考え方
重点プロジェクト	ACF (活性炭素繊維) (私自身はこの技術を知りませんが)に限定する必要があるのでしょうか。5年間であれば、新しい技術が出てくる可能性は十分にあると思います。	一例として記述しているものであり、限定しているわけではありませんので、原案のままとしました。なお、「はじめに」にも記載されているように、5年の間に新しい技術が出た場合等、社会の変化に応じて変更していきます。
重点プロジェクト	浮遊粒子状物質や窒素酸化物による大気汚染対策を考える場合、景観・緑化等に配慮した自然物質による大気浄化システムと並行して論ずる必要があると思われま。	重要な事項であると考えますが、ここでは「低公害交通機関」について記載しているものであるため、原案のままとしました。ご指摘の点については、開発戦略目標 に記載しております。
重点プロジェクト	特に「地盤環境と地下水」の重要性を具体性を持って強調するべきである。	「地盤環境と地下水」の関係も含めて、重点プロジェクト に記載しております。
重点プロジェクト	環境汚染物質についての影響予測手法としているが、環境汚染物質に限らず、あらゆる事業(造成、道路など)に関しての手法とするほうがよいと考える。	重要な課題であると考えますが、ここでは水循環・物質循環に悪影響を及ぼす環境汚染物質について記載しているため、原案のままとしました。なお、環境に配慮した社会資本整備技術については開発戦略目標 に記載しており、ご指摘の課題も含まれると考えております。
重点プロジェクト	干潟・藻場などの海洋の自然再生を行う技術だけでなく、河川や湖沼等の内水における自然再生の技術開発も行うべきである。	「河川環境目標の設定、河川環境技術の確立」を重点プロジェクト に追記しました。
重点プロジェクト	「干潟環境の再生」は住民との共生・合意の観点からも重要度が高い。「浜名湖」など大型湖水で具体的な事例を挙げた方がわかりやすいのではないかと	本計画は方向性を示したものであり、具体的な事例については個々の施策において実施していくこととなりますので、原案のままとしました。
重点プロジェクト	自然との共生を図る上で、エネルギーの循環は外せないのではないかと。ここには、エネルギーに関してのコメントが全くない。代替エネルギーの推進に関する技術開発もテーマとして入れるべき。	重点プロジェクト でバイオマスを取り上げておりますので、ここでは記載していません。なお、開発戦略の目標 の技術研究開発の具体的な方向性にも記載しています。
重点プロジェクト	静脈物流形成技術の開発は今後の重要テーマと思われる。	静脈物流形成技術については、重点プロジェクト に具体的に記載しております。
重点プロジェクト	次の文に変更してもらいたい。  (変更文案) 例)【住な技術研究開発の概要】 持続可能な社会構築を目指した建築性能評価・対策技術の開発 建築ストック全体の環境影響の最小化を図るため、建築物のライフサイクルを通じてエネルギーの消費・資源消費などが少なく、総合的な環境影響に関する性能の優れた建築物の評価技術、損傷許容設計等の設計・施工技術の開発を行います。	本課題は環境にテーマを絞って重点プロジェクトとして記載しているため、原案のままとしました。なお、設計技術については開発戦略、 に記載しております。
重点プロジェクト	社会資本・交通機関の維持管理のコスト削減などのストック活用のための技術開発に、安価なり・ニューラル技術の開発を追加した方がよい。	安価なり・ニューラル技術については、重点プロジェクト にリサイクル・リユース技術の確立について、具体的に記載されています。

意見該当部分等	頂いたご意見	意見に対する考え方
重点プロジェクト	リサイクル材の品質評価技術及び利用と拡大のための技術開発も必要である。	「建設廃棄物及び…」にて「リサイクルシステムの事業化に向けた基礎的技術の確立等を目指します。」と記載しており、それがご指摘の技術開発を含んでいると考えますので、原案のままとしました。
重点プロジェクト	再生資材には、有害物質が含まれているものも多く、使用材料、流通経路、施工データなどの蓄積、管理のための情報交換システムも必要である。	「建設廃棄物及び…」にて「リサイクルシステムの事業化に向けた基礎的技術の確立等を目指します。」と記載しており、それがご指摘の技術開発を含んでいると考えますので、原案のままとしました。
重点プロジェクト	RDFの自然発火災害の発生など、リサイクル材による災害発生を防止するため、安全性の評価技術開発も必要。	「建設廃棄物及び…」にて「リサイクルシステムの事業化に向けた基礎的技術の確立等を目指します。」と記載しており、それがご指摘の技術開発を含んでいると考えますので、原案のままとしました。
重点プロジェクト	重点プロジェクトの「安全で低コストな大深度地下利用を可能にする技術の開発」が関連すると考えられます。大深度地下利用については、構造物を作るだけでなく、解体・再利用する技術も必要と考えます。	重要な課題であると考えますが、テーマを絞って重点プロジェクトとして記載したものです。原案のままとしました。なお、廃棄物技術については、開発戦略の目標、重点プロジェクトに記載しており、大深度地下利用技術の開発にあたって也十分留意してまいります。
重点プロジェクト	大深度地下利用を促進する場合、発生土の処分は大きな課題である。(コスト環境面において)再利用方法の確立による効果は多岐にわたる為、【効果】への記述が必要だと考えられます。	重要な課題であると考えますが、テーマを絞って重点プロジェクトとして記載したものです。原案のままとしました。なお、廃棄物技術については、開発戦略の目標、重点プロジェクトに記載しており、大深度地下利用技術の開発にあたって也十分留意してまいります。
重点プロジェクト	他のテーマに比べて、これは非常に具体化している、逆に言えば、限られた工法に限定されたテーマになっている感があります。そのため、テールシールなど、かなり細かいことまで(重要な技術ですが)記述されています。また、シールド以外には選択肢がないのでしょうか。	シールド以外のトンネル工法としては、都市部山岳工法(いわゆる都市NATM工法)が挙げられますが、現時点では大深度地下利用においては一般的な技術とは言えないと考えられます。このため、原案のままといたしました。なお、「はじめに」にも記載されているように、5年の間に新しい技術が出た場合等、社会の変化に応じて変更していきます。
重点プロジェクト	NATM工法に対する技術研究開発戦略についても記述してほしい。	NATM工法については、上記のとおり現時点では大深度地下としては一般的な技術とは言えないと考えられるため、原案のままといたしました。なお、「はじめに」にも記載されているように、5年の間に新しい技術が出た場合等、社会の変化に応じて変更していきます。
重点プロジェクト	石油地下備蓄、放射性廃棄物の地下処分等に関する技術研究開発戦略についても記述してほしい。	国土交通省の所管外となるため記述は難しいのですが、関連省庁所管の研究開発についても国土交通省の技術が活かされる分野には、関連省庁と連携して取り組んでいきたいと考えております。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
重点プロジェクト		GPS技術(RTK-GPS、VRS等)と建設機械、農業機械、様々な産業機械を連動させての低コスト化、人為的なミスの回避。 災害現場や建設現場などで建設機械等の作業の安全の確保と労力の節減、遠隔地からのリモートコントロール、電子国土地図データと連携。農業分野においても高齢化に伴う後継者不足の解消や低コスト化に向けて農業機械と宇宙測位技術の応用で作業の自動化等を目指す。また、様々な分野で自動化できることはこれからの高齢化社会に向けて有用であると思われます。	ご指摘の課題は重点プロジェクト と の研究成果を活かして連携することが必要です。しかし、両技術とも未だ重点プロジェクトとして研究開発段階にあり、重点プロジェクト同士を連携させる課題を改めて重点プロジェクトとして選定することはしていません。なお、これまでも電子国土Webシステム等の利活用を進めているところであり、重点プロジェクトとの連携を図っていきたいと考えております。また、関連省庁との連携も推進していきます。
重点プロジェクト		建設事業の合理化を目指します」という副題にしてはどうか。	建設ロボット等の開発による最大の効果が「危険・苦渋作業からの解消」であるため、原案のままとしました。
重点プロジェクト		非破壊検査による評価技術の開発と対して、評価後の不良部に関する「補修技術の開発」も追記すべき	「補修技術の開発」も重要と考えますが、これまで検査技術が未熟であったために維持管理コストがかかっていたことから、敢えて本プロジェクトを単独で重点プロジェクトとして選定しました。なお、開発戦略の目標の技術研究開発の具体的な方向性には維持管理について記載しておりません。
重点プロジェクト		国民の行為を悪意を持ってみているような表現は不適切なので、副題を「手抜き工事を見逃しません」から、「構造物の欠陥・劣化を見逃しません」、あるいは「建設事業の合理化を目指します」としてはどうか。	「構造物の欠陥・劣化を見逃しません」に修正しました。
重点プロジェクト		鋼構造物(橋梁)の被破壊検査技術として、竣工検査時の手抜き工事を見逃さない超音波探傷試験のみでなく、供用後に行われる点検時の被破壊検査方法の研究も期待したい。	本プロジェクトは竣工時のみならず維持管理時にも適用できるものであり、本文にも維持管理面での活用を記載しております。
重点プロジェクト		開発の対象として、トンネル構造物分野で打音検査の機械化が挙げられている。 機械化による打音検査技術開発とあわせて、赤外線画像や他の画像処理を利用するコンクリート表面の変状を把握する技術とともに効率的・効果的に組み合わせ、調査・記録ができる検査技術として確立することが重要であるとする。また、これらの調査結果から得られた情報を竣工時の情報と併せたデータベース化を図り、継続的に社会資本の健全性を確認し、計画的な調査から補修までのトータル維持管理システムを構築していくことが重要である。	本プロジェクトは、現在の打音検査に代わる新技術を開発するものであり、赤外線等を用いてデータベース化を図っていくことも内容に含まれておりますので、原案のままとしました。
推進戦略		不要である。	開発戦略等を支える制度面として必要であり、原案のままとしました。
推進戦略		今後の技術開発は、異業種間の保有する技術開発を有機的に複合させることが重要であり、ひいてはこれが国際競争力の源泉になると考えられます。従って、異業種間連携を促進できる環境づくりに期待します。	「2.産業技術力の強化と多様な連携の促進」の「技術研究開発を通じた企業間の連携支援」が該当すると考えていますが、本計画の実施にあたってはご意見を参考にさせていただきます。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
人材 基盤戦略		人々が生きがいを持ち、社会の一員であることを実感するためには、信頼できる人材評価基準・正当な技術評価基準が必要であり、そのためには、基準の雛形とも言えるようなものが広く一般に公表・浸透していることが望まれると思われま。	国土交通省が実施している研究開発の評価については全て公表しておりますが、未だ試行錯誤の状態であり、雛形という位置づけで公表するには困難な状況です。しかしながら、ご指摘事項の重要性は十分認識しており、「1.技術研究開発システムの改革」に「評価システムの改革」に記載しているように、今後も改革を続行し、雛形としての公表を目指してまいります。
推進戦略		(2)推進戦略の「1.技術研究開発システムの改革」は喫緊の課題であり、他産業と比べると、建設産業に対しては、「民間企業が取り組む技術研究開発に対する公共からのインセンティブの付与」が不十分であると思えます。	新技術の活用等でこれまで取り組んできたところですが、よりよい施策とすべく、今後も改善してまいります。本計画の記述は原案のままとしました。
推進戦略		民間技術を活用する場合にどのような形態で技術を開発した企業にインセンティブを与えていくのか、方向性も同時に示していく必要があると思えます。	国の工事においては新技術の活用を行っており、企業へのインセンティブとなるよう今後も積極的に進めてまいります。
推進戦略		生活に密着した技術の開発が多くなる今後は、その分野の公共工事が多い地方自治体にこそ、開発成果の展開出来る場面が多いのではないのでしょうか。特に環境関連技術は開発成果の具体的な展開プロセス（特に地方自治体が提供出来るマーケット規模）が提示される事を希望します。	本計画の成果を自治体工事に採用するように義務付けることはできないので、原案のままとしました。自治体に新技術の情報を提供し、その活用を協力を呼びかけていくことをこれまでもしてきており、これからも継続して実施してまいります。
推進戦略		推進戦略、人材戦略等で、「独立行政法人～フレックスで……」というのは民間ではバブル期の過去のもの、建設分野での研究・開発分野は的を絞った方向にあり、建設マーケットや建設就業人口の吸収等を考えてもは、役人中心でなく、「民活」を強調した研究・人材育成の方向性を強調すべき。	フレックスに関する記述を削除しました。
推進戦略		大学・民間企業が本計画の趣旨にあった研究開発を行おうとする場合、国土交通省の支援策はどのようなものを考えているのか。	研究開発に対する助成制度があり、それを活用していただくことを考えております。
推進戦略		概要欄に「地方公共団体などと連携を図りつつ」とあるが、具体的な連携の内容を記載して欲しい。 例：人事交流、研究機関の開放等	「3.地域における技術振興のための環境整備」に「共同研究等の推進を通じて」を追記する。
推進戦略		理想的な技術開発を進めるためには、法規制上の問題や政策的課題の解決に向けても積極的に取り組むべきであると考えます。	推進戦略等で示しているとおり、ご指摘の法規制及び政策的課題の解決は重要であり、本計画に基づいて今後具体的に施策を実施してまいります。
人材 基盤戦略		プロローグの「8.大空愛美」の話として、手抜き工事の問題が述べられているが、工事の管理により欠陥工事を見つけることよりも、正しい施工技術を小規模工務店まで徹底させる技術教育の普及も望まれる。	人材 基盤戦略の「技術者の資質と能力の向上を図るシステム構築」に記載しており、ご指摘の趣旨を踏まえて技術教育の普及を図ってまいります。

意見該当部分等		頂いたご意見	意見に対する考え方
人材 基盤戦略		建設分野は、次代を担う若手からは魅力の低い分野と考えられています。このような現況を考慮すると、将来を見据えた人材確保という側面について、原案よりさらに踏み込んだ戦略が望まれます。先日、「国づくりの100年デザインの提案」を拝見いたしました。内容はともかく、このような将来ビジョンを具体化する機会を継続していくとともに、そのための技術開発のあり方はどうあるべきかを考え、実現する機会を増やしていただきたいと思えます。	重要なお指摘であり、人材確保という側面からも魅力ある計画・施策を継続して実施していきます。
人材 基盤戦略		継続的な教育」を「継続教育（CPD）」に修正するべきである。	修正しました。
コミュニケーション戦略		「コミュニケーション戦略」を「戦略」と言ってしまうと、社会を敵対視しているようにも見えてしまいます。「コミュニケーション戦略」の中にある「社会とのチャンネル構築」のような優しい言葉に変えられないでしょうか。	他の「～戦略」と合わせ、積極的な取り組みという意味で「コミュニケーション戦略」としました。
コミュニケーション戦略		社会資本整備の担い手は「縁の下」の力持ち、的存在であると日々考えている。したがって、ふだんは目立たないことをよしとする分、「社会とのチャンネル構築」や「技術学習機会の振興」は大変重要であり、意義のあることと思われる。しかし「技術に対する社会的責任」がコミュニケーション戦略に位置づけられるのは疑問である。なぜなら、本内容は倫理に関わるものであり、コミュニケーション以前の問題と考えられるからである。プロローグにあるような未来イメージを共有することこそが、コミュニケーション戦略として一番重要なことであると思えます。	技術に対する社会的責任」について、本計画において改めて記載し、技術者が当該意識を持って計画策定・実施に携わっていることを社会に示すことが重要であると考えており、このような文案としております。なお、ご指摘のように今後も認識の共有化を図り、コミュニケーションを一層促進していくことが重要と考えております。
コミュニケーション戦略		「社会とのチャンネルの構築」という項目があるが、コミュニケーション戦略の重要事項の一つに、公德心の復活または公共心の再構築といった項目を掲げて、都市整備や道路整備などの際に、用地買収に協力するのが国民としての美徳である、という価値観を植え付け直すことが重要ではないか。これができれば、都市再生などもいっしょに進んで用地買収費や建設工期も縮減、短縮の方向に向かい、「快適で生活コストの安い暮らし」の実現につながると思う。	公共事業にご協力いただくための施策については重要であると認識しており、公共事業をより多くの人にご理解いただけるよう「出前講座」等の施策を別途展開しております。しかしながら、個人の持つ価値観は自由であり、それを直接的に変えさせるような施策は適切ではないと考えております。
参考		他省庁の協力が必要と思えます。	(参考1)に記載しておりますが、今後、施策を実施する上で有意義なご意見であり、参考とさせていただきます。
参考		どの語が用語集に掲載されているのか、番号を振るなどして本文中で分かれば読みやすい。	ご指摘を踏まえ、記載方法を工夫し、修正しました。